

womanてらす



からむし織

(福島県)

からむし織は、越後上布や小千谷縮とも肩を並べられる夏着の最高級品です。軽くて艶があり、涼やか。ひんやりとした肌触りは「氷をまとっている」と表現されるほど。しわができて霧吹きで水分を含ませると張りが戻ってき

氷をまとった肌触り

ます。また手洗いできる素材なので、汗をかく夏でも気軽に袖を通すことができます。私はからむし織を手に入れて以来、「夏こそ着物」と思うようになりました。

原料のカラムシは麻の一種で、苧麻と呼ばれるイラクサ科の多年草です。刈り取りが始まるのは7月の土用の頃。刈り取ったカラムシは茎の皮を剥いだ後、表皮と繊維を分ける「からむし引き」という作業を行います。この繊維が糸になります。繊維は乾燥させてから細く裂き、つなぎ合わせます。帯1本分の糸を績むのに3カ月かかると言われています。

からむし織に出合ったのは20年ほど前。福島県昭和村か

ら作り手の女性が訪ねてきて、私の店で扱ってほしいと相談を受けたのがきっかけです。村は越後上布などの原料産地として知られていましたが、特産品として織物にも力を入れたいということでした。高価な織物を扱うことに迷いがありましたが、村を訪ねて苧績みを生きがいにしているおばあさんたちを見て心を決めました。この素晴らしい織物を後世に残したい、そう思って村の人々と交流し、商品開発をお手伝いしています。

写真の着物と帯はいずれもからむし織です。職人に白とグレーの縞柄と市松模様で、見た目も涼やかなものを作ってもらいました。着る人だけ



昭和村で作られたからむし織の着物と帯

ではなく、見ている人にも涼を感じさせる織物です。

(田中陽子・「暮らしのクラフト ゆずりは」店主)

〈第4金曜日掲載〉